

# 自然観察 NOW

N.O. 93

野幌森林公園自然情報

発行：2026年2月8日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ <https://voluran.com/>



## 身边なのに謎が多い？キタキツネの世界

北海道で暮らしていると、森でエゾリス、草地でエゾシカ、運がよければクマガラ……そんな出会いに胸が躍りますよね。そんな中でもよくみかける野生動物のフサフサしっぽの人気者——キタキツネ。車道脇に立っていたり、畠をのぞき込んでいたり、「あれ、犬かな？」と思ったら実はキツネだった、なんて経験をした方も多いはずです。

あまりに身近すぎて、「キタキツネならよく知ってるよー」と思っていませんか？

でも、ちょっと待ってください。雪に飛び込む名ハンター「マウスジャンプ」、スミレの香りがする尾の秘密、そしてまっすぐに続く足跡のサイン。知っているつもりでもまだまだ謎だらけ、キタキツネの奥深い暮らしを少しだけご紹介します。

### キタキツネ（北狐、*Vulpes vulpes schrencki*）

分布：北海道全域、千島列島など

体長：約50～60cm（尾長約30cm）、体重は3～6kg

食性：雑食で、小動物（ネズミ、ウサギ）、鳥類、昆虫、果実など

行動：夜行性が中心だが、明るい時間帯にも活動することあり

社会性：基本は単独行動だが、繁殖期や餌場では接触する

繁殖：1月～3月に交尾、4～6月にかけて出産、平均して4～6頭の子を“家族で”育てます

見分け：ホンドキツネに比べ一回り大き目。毛は赤味が強く、足先だけ黒い“靴下”模様が特徴。



### 雪上のサイン — 足跡を探そう

雪道を歩いていて、小さな犬のような足跡を見つけたことはありませんか。キタキツネの足跡は、前足と後足がほぼ重なって一直線に並ぶのが特徴です。前足と後ろ足が同じ位置に重なっているのをよく見ると確認できます。

まっすぐに続くその足跡を追っていくと、どこかで狐と鉢合わせするかもしれません。観察の楽しみのひとつですね。歩行以外の足跡の残り方もご紹介します。ここまで見抜けるようになるともうベテランですね。

歩行（ほこう）



前足と後足がほぼ同じ位置に着地



速歩（そくほ）



左右の足が交互に出るため、足跡は斜めに連続



走行（そうこう）



足跡はまとまってつき、地面を蹴り出す力が強く



疾走（しつそう）



足跡はさらに密集し、前後に大きく開いた着地跡



## マウスジャンプ — 雪の下のネズミを狙う

冬の雪原で、耳をピンと立てたキタキツネが、雪の下で動くネズミのかすかな音を探す姿を見たことはありますか？音をとらえると、突然大きく飛び上がり、頭から雪に飛び込む——これが「マウスジャンプ」です。キツネは高さ 2m のフェンスも飛び越え、時速 48km で走り、泳ぎも得意。特に聴覚は驚くほど鋭く、ノネズミが草むらで立てる 3.5kHz 前後の低めの音も正確にキャッチできます。これにより、5m 離れたネズミの動きも 1 度以内の角度で特定できるのです。ジャンプの角度は状況に応じて変化します。近ければ近く、雪の下にいる獲物にはほぼ垂直に。空中でも耳で音源を微調整し、前足と牙で獲物を押さえつけます。まさに「誘導ミサイル」のような正確さです。さらに、チェコの研究によれば、キツネは地磁気を使って獲物の位置を定めている可能性があります。北東を向くことが多く成功率が高いのだとか！北海道のキタキツネでも似た行動が見られるかもしれませんよ。次に雪原で見かけたら、方角も確認してみてください。新たな大発見があるかもしれません。



## 匂いで知らせる — スミレ腺

キタキツネの尾の付け根には、スミレ腺と呼ばれる小さな臭腺があります。見た目は橢円形の暗色の毛の下に隠れ、長さ 3cm、幅 1cm ほどの線のように見えます。この腺から出る分泌物は、スミレの花を思わせる独特の香りを持つとされます。

このスミレ腺、いったいどんな役割があるのでしょうか？実は、最新の研究でもその機能は完全にはわかっていません。ただ、以下のような可能性が考えられています。

- ◆ 社会的コミュニケーション：他のキツネに自分の存在や状態を知らせる手段
- ◆ 繁殖行動との関係：繁殖期にはオスの腺が発達することがある
- ◆ 縄張りの主張：尾を振って匂いをまき、領域を示す

キツネは尿や他の分泌腺も使って匂いで情報を伝えています。観察するときは、こうした匂いの使い方を意識すると、キツネの社会生活や行動の仕組みが少し見えてくるかもしれません。尾の動きや行動の意味を想像しながら観察してみましょう。

## 手を出す前に考えて！野生キタキツネの命を守るために

森や道端でフサフサのしっぽを見かけると、つい「何かあげたい」と思うことはありませんか？でもちょっと待ってください。その一見「親切」な行為が、実はキツネの命を脅かしています。

人間の濃い味の食べ物は、キツネの体に合わず、免疫力を下げてしまうことがあります。さらに、餌を置くことでキツネが人に慣れ、複数の個体が同じ場所に集まるため、疥癬（かいせん症）やエキノコックス症といった病気が広がりやすくなるのです。疥癬にかかると毛が抜け、体力が落ち、冬を越せず命を落とすこともあります。また、エキノコックスは人にも感染し、何年も後に重い健康被害となってしまう可能性があります。「かわいいから」「おなかが空いてそうだから」と手を差し伸べる前に、考えてみてください。見た目の可愛さで手を差し伸べる行為は、命を奪うことにつながっているのです。身近な野生動物だからこそ、お互いの命を守るために必要なのは、距離をとることです。

## 参考文献

今泉 忠明. 『野生動物観察事典』. 東京堂出版, 2004 年. ISBN 978-4-490-10643-5.  
挿絵は Google の生成 AI 「Gemini」を一部利用。

(文責：蔵谷 徳洋)

観察会予定 2026 年

3 月 19 日(木) 「森の中で春をさがそう」観察会 (共催) 9:50(集合)-12:30